

# 花まるたより

2023  
7,8

## INDEX

- 高濱コラム  
天下統一をめざして！  
花まるサムライ合戦
- レインボータイム  
花まるリビング
- おはなしのキッチン  
平沼純の旅する読書
- 職人の無人島レポート  
タカラモノはどこに
- とある花まるの先生が、  
わが子の中学受験に直面した
- Rin コラム  
花まるコラム
- 花まるファミリー



## 体験という贈り物

アマゾンで、飛行機が落下したのに、生き残った4人の子どもたちが40日もジャングルで生き延びて救助されたというニュースがありました。13歳の長女を頭に、9歳の長男、4歳の次女、11か月乳児の三女。ジャングルには食べられる木の実だってあるだろうけれど、毒のみのだってたくさんある。昼は酷暑、夜は寒く風雨も強烈だと言いますし、さらには毒蛇や猛獣もいる。建物もないなか、どうやって生き延びたのか。ここまでの情報だと、もともとジャングルで暮らす先住民の子たちで、幼児期から食べられる植物の見分け方や、木の枝や葉っぱでシェルターを作る方法など、森のなかで生き延びる知恵を教え込まれていたと伝えられています。

こういう情報を聞くと、ある種のロマンというか「文明の進化した側の子どもたちだったら全員すぐに亡くなっていただろう。すごいよな」と、自らを卑下するような思いも湧くものですが、9割9分の子がジャングルで子どもだけで生き延びるという状況にはならないに決まっているわけで、それよりもこれからの時代を生きる子どもに降りかかりそうな条件をしっかり考え抜き、生きる知恵を授けることが大事でしょう。

それは、情報のジャングルでフェイクニュー

スや煽りコメントに翻弄されて道を見失わない心構えでもあるでしょうし、ChatGPTが典型ですが、天候の急変のようにある日景色が変わる技術革新に柔軟に対応できる力でもあるでしょう。また大地震や線状降水帯による豪雨、パンデミックなど、何度か訪れる昔から変わらぬ試練をどう乗り越えるかの具体策や準備を知ることでもあるでしょう。いずれにせよ、ある人間群が生き抜くには、リーダーのビジョンや統率力が大事なことは確かで、13歳のお姉さんが、乳児すら抱えながらどんな景色や課題を見て決断し声かけしていたのが、知りたいなとは思いますが、芯にある「生きねば」という心の強さには、学ぶべきものがあると思います。

さて、『週刊ダイヤモンド』という雑誌の書評欄を任されて数年経ちます。2〜3か月に一回くらい教育分野の書籍を担当するのですが、読書はもちろん喜びである一方、仕事として読ま「ねばならない」ものとなると、少し負担と感ずることもあります。しかしだからこそ、あれこれ探した結果出合える本もあって、それがおもしろいと宝くじに当たったような嬉しさがあります。

アメリカのベストセラーだという『傷つきやすいアメリカの大学生たち(草思社)』が、そういう本でした。2010年代に入って、大

学キャンパスでこれまでになく異様な光景が繰り返されるようになった。メディアやSNSでの誰かの発信のなかの言葉尻を捉え焦点を当てて、つるし上げ糾弾し暴力まで振るうような学生群が出現した。それも特定の団体だけではなく、さまざまな立場のグループでそうやってきた。そして何より、十代の若者のうつ病や不安症や自殺が明らかに増えた。それらの理由をデータやファクトに基づいて調査研究した書籍です。

おもしろかったのは、その大きな原因を、「過干渉・過保護・あまやかし」に求めている点です。特に、「子ども時代に親元を離れて、親の目の届かないところで自由に遊ぶこと」を「何かあったらどうするんですか」というように禁止し、なくしてしまったことが、最大の原因であるとしています。そして、肉体の免疫系と同じで、心の面でも人間関係などで幼い頃に辛い目に遭って乗り越えるからこそ、のちのちそのような逆境やトラブルにたくましく対処することができると、ちよつと子ども同士の喧嘩やもめごとがあると、問題視して除菌するようにそれらを回避させ、場合によっては学校を攻撃する傾向についても、悪しき急まわしき「安全イズム」という言葉で批判しています。

## 新刊情報

高濱の本棚

### 『マンガでわかる! 10才までに遊んできたえる論理的思考力パズル』

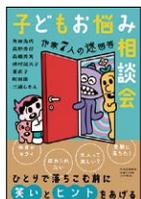
高濱 正伸・一色 恭介 監修/北原 恵子 著(永岡書店)



『マンガでわかる! 10才までに』シリーズに「論理的思考力」をきたえるパズルの登場です! 国語や算数だけではなく、すべての科目で必要となる論理的思考力。遊び感覚でパズルを解きながら、「問題を正しく読み解く力」や「解決に導く力」を楽しむことができます。「ふりがな」付きで小学校1年生から挑戦できる、学力や思考力の土台作りにも最適なパズルです。

### 『子どもお悩み相談会 作家7人の迷回答』

角田 光代/高野 秀行/高橋 秀実/津村 記久子/東 直子/町田 康/三浦 しをん 著(中央公論新社)



子どもの悩みにどう答えるかは、これぞ決定版というものが存在しない課題。子どもの個性は多様だし、置かれた時代・状況や家庭環境・年齢・性別もさまざまで、すべてが個別解決だからだ。同じ言葉でも、言ってくれる大人の魅力によって浸透度が異なる。本書は、7人の作家たちによる、独特な回答の書。親として、最も頻繁に聞かれるような疑問や不安に対し、「こうすればよい」と「理」だけで正解っぽいことを言うのではなく、物語る手法で答えている。自分のつらかった経験を語り、またクスリと笑えるスパイスを盛り込むことで、寄り添ってくれているような心温まる後味が残る。人を見つめる見識の深さと哲学が土台にあることも大きいだろう。大人が読んで心も整う一冊。

日本の社会的引きこもりの問題の根っこにも、同じ病巣があることは、あちこちで指摘されていることですが、アメリカでも同様な心の病が、過干渉・過保護によって広がっているのは驚きました。ついでに言うところ、知り合いを通じて、つい先日上海からのお客さんが相談に見えたのですが、かの国でも不登校や若者の自殺が急増し、自立への不安を抱えた人が増えているし、対策として打つ手なしの家庭がたくさんあるのだそうです。つまりは、人類全体として経済がある程度成長すると、物に不自由することとはなくなるし、どんどん便利で快適になる一方で、子どもの心が弱くなる問題が生まれるということでしょう。「文明の発展に伴う副作用」と言えるかもしれません。本のなかでは、歴史的に見て「子育ての安全性は高まっているが、そのことによって逆に子どもたちの恐怖心も高まっている」とも述べています。そして対策として「適度に年齢に合った方法で、ストレスにさらされること」がたくましく有能な大人になるために必要と説き、「大人の監視がないところでリスクを取る行為」の重要性を強調しています。

ジャン・ジャック・ルソーが、子の自立を目標としたときに、母親による過干渉こそが『最も残忍な行為』と述べてから200年。今や、便利で不自由のない世の中であればこそ「豊かなさの病（心を強く育てるためにあるべき『厳しさ』よりも、『甘やかし』に寄っている子育てが支配的になる状態）」が世界を覆い始めているのかも知れません。付け加えると、精神疾

患が増えている主因として、スマホをはじめ電子デバイスの使用頻度の高さを指摘する研究も引用されていて、ユーチューブ・ゲーム漬けの子守りが増えている今、これは親御さんたちには肝を冷やすデータかもしれませんし、それらまた「文明発展に伴う副作用」とも言うでしょう。

今回この一冊との出会いは、社会的引きこもりの増加と生きる力の減退を問題意識として花まる学習会を立ち上げ、「もめごとはこやし」と言い続け、「親元を離れた野外体験の自由な外遊びのなかにこそ最高の育ちの場がある」と信じてサマースクールなどの野外体験の機会を提供し続け、子によっては「山村留学」などを推薦してきた私としては、強い援軍を得た気持ちでした。いまこの時期で起こりがちなこととしては、わが子がサマースクールに「行きたくない」と泣いて言い張ったりしたときの対応です。愛おしいわが子を守りたい母性の落とし穴というのが「本人が行きたくないと言っているのじゃ、しょうがないわね」と、キャンセルするような行動です。30年継続していて、野外体験の数日の経験で「行かせなければよかった」という声は、ほほもらったことはありません。家族、特に母親と離れる不安があることは健やかさの一つですが、この本でも読んで「気持ちよくなるけれど、心を強くする機会だよ。行っておいで！」と力強く送り出してほしいものです。少しでも応援になるように、この本の328ページを引用します。

反脆弱性をじかに教えることはできないが、体験という贈り物は与えられる。子どもたちがたくましく自主的な大人になるには、幾多の体験をする必要がある。子どもが自分でリスクを判断し、悔しさ、退屈さ、人との衝突に対処できるようにするには、体系化されていない、大人の監視なしの時間を過ごすことが必要で、まずはその認識を持つことが大切だ。そして、子どもがその時間にすべきは遊ぶこと、とりわけ他の子どもたちと屋外で遊ぶ自由遊びだ。状況によっては、大人がそばにいて身の安全に気を配る必要があるかもしれないが、子ども同士で言い争いやケンカには基本的に介入すべきではない。

さて、コロナの暗雲もかなり晴れてきた今年、子どもにとってその年齢での一度きりの夏がやってきます。どうか、本当に危険なことにはアンテナを張りつつ、心がワクワクする体験に満ちたひと夏となりますように。

花まる学習会 高濱正伸

夏休みをもっとおもしろく! 花まるグループ講演会 知る・見る・歩く・考える 親子で楽しむ

社会のトリセツ

理科のトリセツ

花まるだより 2023年7,8月号  
(令和5年7月5日発行)

編集・発行 株式会社こうちゅう  
花まる学習会  
発行人 高濱正伸  
企画・編集 久慈 菜津紀  
編集 金井彩・清田 奈南  
坂田翔・高橋 奈穂  
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子  
印刷 アークランド株式会社

かのう たかし 狩野 宗



「花まる子育てカレッジ」  
チャンネルにて

YouTubeアーカイブ  
無料配信中

かわはた ちか 川幡 智佳



ご視聴はこちらから!

藤枝詩織・たんしお | 小1のとき、近所の神社の池のまんなかたに小さな鳥居があり、「一発で石を入れると幸せになれる」と言い伝えがありました。なんとが近づこうと橋を越えたら、あえなく落下。寄ってきた鯉の群れの迫力は「食べられる!!」と恐怖しているばかりになり、「助けて!」と泣き叫んで、ずぶ濡れで帰りました。





いざ、最後の  
天下統一戦へ

# いざ、花まるサムライ同戦へ!



最後まであきらめない

# 花まるSTORY

## ▶ 泣き虫からヒーローへ

6年生のMくんは、サムライの国に4回連続で参加。初めてサムライ合戦に参加した3年生の頃、合戦の激しさに、前に出ることができず「怖い」と泣いていました。一人も倒すことができなかったのですが、それでも「サムライにまた行きたい」と強くなることを諦めませんでした。

6年生になって参加したサマースクール、最終日の表彰式。

「次は、MVPの発表です」と私が言うと、どこからともなく「M!」「M!」と、Mコールが。やがてそれは大合唱へととなっていき、60人の子もたち全員が彼の名前を呼んでいました。

その光景に、自然に涙が出てきました。そして、子どもたちに伝えました。「3年生の頃、泣いていた彼が、一人も倒せなかった彼が、諦めずにがんばり続けた結果がいまなんだよ」と。

その後、刀のサイン会では、Mくんの前に長い行列ができました。「ほくも、強くなりたい」と話す一年生に、「うん、がんばれ」と励ますMくん。

彼がここまで強く優しくなれたのは、きつといままで出会ったリーダーや上級生の存在があったからではないでしょうか。

野外体験の醍醐味は、人対人の生身の人間関係です。「こんな人になりたい」という憧れが、その子の中に『カッコいい人って、こんな人』という価値観や『自分もこうしていきたい』といった意志を育てていく。私はそう考えています。

花まる学習会 白杵 允彦



# 天下統一を目指して





こんげつ

# 今月のレインボータイム

## 【パターンハント】

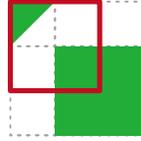
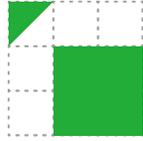
出題：坂田翔 (花まる学習会)

解答はこちら！

お手本の模様と同じものを探そう！  
例題のように、回転させても OK です。

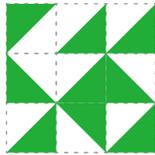


れい

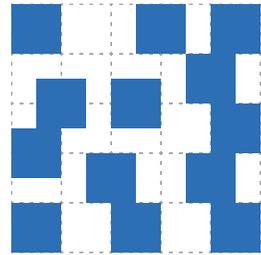


正解は、赤で囲んだ部分！

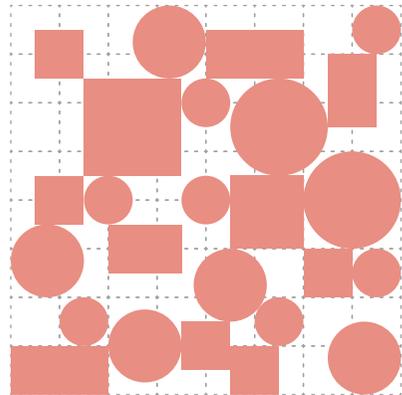
レベル 10



レベル 50



レベル 99





勝谷 里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小3・小1・1歳児の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんずう初級』（学研プラス）ほか



## 自分の“対：子ども”の、引き出しを充実させる

「夏休み」という言葉を聞いて、親は何を思うでしょう。正直「長すぎる……!」。特に長女が小学生になって初めての年は、「小学生の夏休みってこんなに長いんだ!」と驚きました。「コロナでおうち時間が多くなっていたことも重なり、いったい何をして過ごせばいいのか悩みに悩んだものです」。

わが家は、小学生の夏休みも三年目。長男は、普段から休日になると「何したらいいの? することない!」となりがちなこともあり、夏休みはすぐに、暇だ暇だと言いついで、いまから戦々恐々。なんとか、自分自身が心穏やかに乗り切りたい、と思います、2つの作戦を考えました。

1. 何か一つ、小さな“非日常”を準備しておく  
夏休みの最大の難関「飽き」と戦うために、普段の生活でも、驚きと楽しさを生み出すためのエッセンスを準備する。

たとえば、わが家は、いま年の差三きょうだいの寝かしつけに苦戦中ですが（上二人も母と寝たい、遊びたい、本を読んでほしいが、一番下の次女が眠くなる時間にはまだ寝たくない）、そんななか、この前成功したのが

- ・部屋は暗くして、次女を寝かしつけ
- ・上二人は、寝室に備え付けのウォークインクローゼットのなかでデスクライトだけつけて、次女が寝るまで読書タイム

という作戦。

ただ「妹が寝るまで、本を読んで待っていてね」と「えーいやだー」となるのですが、狭い空間に秘密基地のような非日常の空間を作っただけで、の

りのりで読書を楽していました。

また、最近友達に教えてもらったのが、「食紅」を使うと、水遊び（ちよっと掃除が大変だけれど、お風呂での水遊びでも使える）の幅が広がる【という「id」。なるほど！ 楽しそう!】と思い、夏休みにお風呂をいやすたとき用のスペシャルアイテムとして「食紅」を家に常備しておこうと思いました。これも、小さな“非日常”。

その場で考えるのは大変なので、前もって、非日常のネタを夏休み用にストックしておこうと思っています。

2. 母である自分自身のマインドセットを変える

私にとって「夏休み」のもう一つの難関は、自分の時間がなくなっていくことです。あれもしたい、これもしたい、でも子どもが話しかけてくる……自分の時間はどこに行っちゃった……。夜は家事に追われ、朝早起きしてやっと自分の時間! と思つたら、休みの日に限って、子どもが早く起きてきたりしますよね。そして、自分の時間がなくなっていくイライラを子どもにぶつけてしま……。そんななか、最近ちょっと案になった考え方。

「私の自分の時間が、子どもに奪われている」のではなく、私が、子どもに自分の時間をシェアしている。言い回しの問題ではありますが、自分自身が能動的に時間をシェアしている、と深呼吸して覚悟を決めると、ちよっとだけ背筋が伸びて、この時間をどうやって楽しもうかな? という方向に持っていける気がしました。

あとは、「子どもと過ごす時間に、与えることは

### テーマ子どもとの遊び



『工作図鑑』

木内勝 作  
木内勝・田中皓也 絵（福音館書店）

伝承おもちゃを含めた創作おもちゃ170種の作り方と遊び方を紹介! 少し難しいものもありますが、家族でワクワクしながら取り組むことで、親子の会話も増えそうな一冊です。



『ポケモンのしま』

ザ・キャビンカンパニー 作  
（小学館）

「きょうは なにして あそぼうか?」この一節が大好きです。ポケモンたち、それぞれの特技(!?)を活かした遊びに、夢が広がります。

花まる学習会 勝谷里美

かりを考えず、自分がしてもらったことを考えてもいい」という考え方。  
うちの子たちは、基本的にお手伝いが嫌いです。ただ、以前「母の誕生日プレゼントに」「秘密で」「何かを作る」という作業が、びたつとはまったみたいで、それは親を介さず、こそこそと集中した時間を過ごしていました。【誰かのために何かをしてもらうお手伝い】とは限らない、というのが発見でした。  
何事も考え方次第。母である自分がちよっと苦しいぞ、と思いつつは、心地よく、積み重なった不満が爆発してしまつよりは、心地よく、楽しんでほしい。子どもも、家族も、そして自分も心地よく過ごせるネタの引き出しを、充実させていきたいと思っています。





「平和とは、『長崎ちゃんぽんのような世界』のこと！」  
 これは、『若おかみは小学生！』シリーズで有名な令文ヒロコさんによる「パンキン」模擬原爆の夏」という本に出てくる言葉です。

この本は、終戦間近の日本各地に落とされた「パンキン爆弾」の存在を知った大阪の小学生たちが、戦時中の知られざる歴史的事実をつきとめようとする姿を描いた物語です。パンキン爆弾とは、第二次世界大戦中にアメリカ軍が開発した「模擬原爆」のことで、長崎に投下された原子爆弾「ファットマン」の練習用として使用されました。練習用とはいえ破壊力はかなりのもので、大阪、京都、愛知、新潟、東京など全国各地に投下され、推定で400名以上の死者、1200名以上の負傷者が出ています。

毎月私がオンラインで開催している連続イベント「旅する読書」でも、去年と一昨年の夏の間この話題を現地の写真とともに取り上げ、「知らなかった」「もっと知りたい」と大きな反響がありました。

自分が住む町にパンキン爆弾が落とされたことを知って衝撃を受けた主人公のヒロカは、戦争のことを調べていくにつれてどんどん混乱してきます。

原爆を落としたアメリカが悪いのか？ アジアの国々を侵略しようとした日本が悪いのか？ いや、そもそも「いい」と「悪い」を単純に決められるのか？ 人類の争いはなぜ起こるのか？ どうやったら戦争がない世界をつくれるのか？

決して一つの絶対的な答えが出ない、戦争にまつわるさまざまな問題——。それでも、混乱を恐れずに時間をかけて粘り強く考えていく大切さ、まずは「知る」ことから始

める大切さを教えてくれる物語。いまだに世界中で戦争や紛争が続いている今年も夏、ぜひ一人で多くの方にひも解いていただきたい一冊です。

そして、この物語のなかで「平和の象徴」として描かれている食べものが、長崎県のご当地ラーメン、長崎ちゃんぽんです。諸説ありますが、もとは明治時代の長崎で、中国人留学生のために安くて栄養価の高い食べ物と作られたのが始まりとされるちゃんぽん。中華鍋一つで作れるとにかく具だくさんの麺料理ということで、いまでは全国区となっています。

「むかしから長崎にはいろんな国の人が住んではったんや。戦争前の長崎は、言葉の通じない知らない国の人どうしでもあいさつして、よその国の神様がまつてあるところにも、ちゃんといさつして……。そういう、ちがう国どうしの文化や習慣や信じるものを尊重しあう、エゴこやつたて聞いてんや。（中略）この長崎ちゃんぽんみたいに、肉も魚介も野菜も、いろんな材料がまじりあって、うまいひとつの味をみんなで作り上げる。そんな世界になったらエゴな。初めてこの料理を食べさせてもろたとき、そう思ったんや。」

ヒロカのおじいちゃんが、得意の長崎ちゃんぽんを作りながらつぶやくこの台詞はとても印象的。「平和」というものがどういう状態なのかという問いにも、人によってさまざまな答えがありますが、この夏はぜひおうちでもオリジナルのちゃんぽんを作ってみて、「本当の平和」「本当の幸福」に思いを馳せてみてはいかがでしょうか？

スクールFC 平沼純



スクールFC 平沼純

PICK UP



『パンキン！模擬原爆の夏』  
 作 令文ヒロコ  
 絵 宮尾和孝 (講談社)

パンキン・ちゃんぽん (2人分)

作業時間：20分 難易度：★★★★☆

レシピ・写真提供：料理家 江口恵子 (natural food cooking)



材料

- 冷凍シーフードミックス…100g
- 豚肉…60g
- カニカマ…3本
- 玉ねぎ…1/4個
- 小松菜…1株
- 白菜…1枚
- 干し椎茸…1枚
- もやし…1/2袋
- 中華顆粒だし…小さじ2
- みりん…小さじ2
- 醤油…大さじ1
- 塩…小さじ1/4
- 胡椒…少々
- ごま油…少々
- 中華麺…2玉

作り方

- ①豚肉は2～3cm幅に切る。カニカマは1cm幅に切る。
- ②水で戻した干し椎茸は薄切りに、玉ねぎは薄めのくし切り、小松菜と白菜は3～4cm幅に切る。もやしは洗ってざるにあげ、水気を切っておく。
- ③鍋にごま油少々を熱し、①と②の玉ねぎをさっと炒める。小松菜と白菜、干し椎茸、シーフードミックスを加えてさっと炒めたら、水600ccを注ぐ。沸騰したら調味料を加えひと煮たちさせ、最後にもやしを加えて1分加熱し火を止める。
- ④中華麺を茹でて丼に入れ、上からたっぷり③のをせる。



～2023年の夏・日常から始まる冒険～



『**帰命寺横丁の夏**』

柏葉幸子 作  
佐竹美保 絵  
(講談社)

夏休み、5年生のカズが帰命寺横丁で見た幽霊の少女、あかり。カズは「死んだ人が生き返る」という帰命寺横丁の秘密を探り始めますが……。謎が謎を呼ぶストーリー展開に、怪談やファンタジーの要素も織り込んだ傑作。作中で語られるもう一つの物語、『月は左にある』も非常に魅力的で、物語に奥行きを与えています。作者はジブリ映画『千と千尋の神隠し』の元になった『霧のむこうのふしぎな町』でも有名。



『**人魚の夏**』

嘉成晴香 作  
まめふく 絵  
(あかね書房)

5年生の知里のクラスに、不思議な雰囲気を持つ転校生、海野夏がやってきました。すぐにクラスの人気者になった夏でしたが、ある日突然、知里に「自分の正体は人魚だ」と打ち明けます……。陸に上がって生きる決意をした人魚の子と、秘密を守ろうとする少年の織りなすエブリデイ・マジック。さまざまな生き方の「多様性」を考える一助にもなる一冊。



『**ある晴れた夏の朝**』

小手鞠い 著  
タムラフキコ イラスト  
(偕成社)

日系アメリカ人のメイは夏休みに友人に誘われ、広島・長崎に落とされた原爆の是非をディベートすることに。真珠湾攻撃、日中戦争、ナチズム、人種差別……。さまざまなバックグラウンドを持つ8人のアメリカ人高校生たちが、唯一絶対の答えがない問いを考え抜く姿の描写が見事で、特に広島平和記念公園にある慰霊碑をめぐるクライマックスの対話シーンは非常に印象的。現代の視点から戦争の本質を問いかける、新たな傑作の誕生に拍手を送ります。



『**夜をあるく**』

マリイ・ドルレアン 作  
よしいかずみ 訳  
(BL出版)

「やくそく、おぼえてる？」夏のある真夜中、ママの声で目が覚めたばかりきょうだいは、家族みんなで「夜の散歩」に出かけます。ひっそりとした静寂、草花のにおい、遠くからかすかに聞こえてくる車の音や虫の声……。見慣れた風景がまったく違って見えてくる素敵な「ナイトウォーク（コロナ禍でも静かなブームでした）」を描いた、2022年度日本絵本賞 翻訳絵本賞受賞作。



『**海のアトリエ**』

堀川理万子 作  
(偕成社)

おばあちゃんの部屋に飾られていた、一人の女の子の絵。「この子は、あたしよ」と言っておばあちゃんが語りはじめたのは、海辺のアトリエに住む一人の絵描きさんとの忘れられない思い出……。まるで一編の短編映画のように、おばあちゃんの夏の日の思い出が繊細なイラストで描かれます。石井桃子さんの「大人になってからのあなたを支えるのは、子ども時代のあなたです」という言葉を思い出させる、珠玉の一冊。



9月〈第5回〉「本×歴史 ～会いに行こう、時の彼方の『ヒーロー』たちに～」

誰もが知っているあの人から、知る人ぞ知る歴史上の英雄まで。心ひとつでふわりと想像の旅に出て、時のむこう側にいる人たちに会いに行きましょう。社会科教育のプロフェッショナルによるミニ講座は、「すごい戦国武将」がテーマです。全国の歴史好きはもちろん、歴史についてもっと知りたい人も集まれ！

9/21(木)・9/23(土) 10:30～12:00  
参加費 一家族 500円(税込)  
申込締切 開催前日の19:00

<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hiranuma/2023/>



# 職人の 無人島

レポート 27

「花まる子ども冒険島」開拓のため、カトパンに続いて広島に引っ越した職人。港がある安芸津町に新たな拠点もでき、ますます力が入ります。そんな2人の日々を、現地からレポートします。

現地集合②

「現地集合」という言葉の由来が、中国秦代にさかのぼるとい説がある。不老不死を求めた始皇帝は大陸各地に霊薬の探索を命じたが、いつまでたっても見つからない。死罪を恐れた家臣たちは、霊薬は人がたどり着けないほど厳しい土地「厳地」にあるのだという消去法的弁明を繰り返すことで難を逃れようとし、結果的にそれが通説になった。加えて、練丹術において霊薬の原料とされた「珠」は、陰陽均衡の摂理によって陰兆となる「鳥」を引き寄せると信じられていた。そのため、皇帝の褒美を独り占めしようとした者たちの多くは鳥の集まる厳地を単独で目指すようになった。これが現地集合の由来であるという。

「民明書房刊」まだある誰も知らない中国故事」より

水銀のような車体を滑り込ませて、新幹線が時刻ちょうどにホームに到着した。降車位置にはすでにカトパンが待機している。目立つように赤いスタップシャツを着ていたのだが、ここで想定外の事態が起きた。あたりを歩くカープファンと見分けがつかないのである。カトパンは広島駅で「KATOPAN」という謎の選手のユニフォームを着たニセサポーターと化していた。これで目印になるのか。一抹の不安をよそに、チャイムが鳴り宇宙船のように新幹線のドアが開く。そして次々に子どもたちが降りてきた。

みんな緊張した面持ち。それもそのはず、これは誰かについて行けばいいという単純なツアーではない。自然と真剣になる。名前を確認し、全員無事に揃っていることを確かめる。乗り遅れも乗り過ぎもなし。この瞬間、小学生にしてひとりで新幹線に乗って広島へ行くという大仕事を子どもたちは見事にやり遂げたのだ。それは同時に、勇気を持ってわが子を送り出したお母さんやお父さんたちの想いが結実した瞬間でもあった。

ひとり、印象に残っている子がいる。その子はこちらが指定した車両ではなく、そのひとつ隣の車両に席を取っていた。空席がなかったわけではない。たぶん、独りになったかっただかと思う。人付き合いが嫌いだとか、そういうことではない。初めて独りで新幹線に乗って遠くへ行くという特別な体験を、徹頭徹尾、自分の力だけでやってみたかっただかと思う。ヒントを見ずに自力で解きたい、そういう気持ちに似ている。

しかし、それはあくまで私の想像だ。本人に確認したわけではないし、確認はできない。そうした個人的な決めごととは、他人がみだりに触れてしまうと壊れてしまうことがあるからだ。大人が感動したいからという理由で暴いていいものではない。だから本当のことはいまでもわからないまま。でもそれがかわまない。決意はただ密かに果たされることを待っている。

花まる学習会 橋本一馬



広島駅に到着する「のぞみ」。コース初となる現地集合の瞬間。

※「民明書房」という出版社は実在しません。書籍名および冒頭の記事はすべて橋本の創作です。

花まる無人島公式 LINE アカウント 無人島企画や最近の様子を配信中!



ぜひ登録してね!

カトパン 加藤 崇彰

花まる学習会 無人島プロジェクト責任者。学生時代から、花まるの野外体験に深くかかわってきた。現在は広島県へ移り住み、オンライン教室の教室長を務めながら、開拓団の受け入れや無人島開拓の準備を進めている。



職人 橋本 一馬

花まる学習会関西ブロック教室長。前職が家具職人だった経歴から「職人」のモデルネームを持つ。家具製作技能士、狩猟免許、ブッシュクラフトアドバイザーなど、ちょっと変わった資格や経歴を活かし、「メシが食える大人」に独自の視点でアプローチを行うことが好き。2022年から広島に移住し、無人島開拓に携わっている。ソロキャンプが趣味。



## 変身する鉛筆

挨拶が終わり、子どもたちが教室を出ていきます。「先生、さようなら！」言う四年生の男の子の手には、鉛筆が裸のまま握られていました。さては筆箱にしまうのが面倒で、そのまま手で持って帰ろうとしているな……。そう思った私は声をかけました。するとその男の子は「え……」と一瞬バツの悪そうな顔をしました。「えーと、これフルートの練習しながら帰りたいんです……」

なるほど。鉛筆をフルートに見立てて指使いの練習をしたという意味のようです。意味がわかったとたん、花が開くように嬉しい気持ちが私の心のなかにも広がりました。子どもが熱中できるものを見つけたということは、それを見守る大人にとっても嬉しいことです。そういえばその日の授業でも吹奏楽を始めたことや、フルートが金属でできているにもかかわらず木管楽器であることを熱心に語り、作文でも音階を吹けたことの喜びを書いていました。年長から見てきた子です。これまでも遊ぶことや食べることで大好きなそれらも大切なことです。ですが、十歳を目前にして、わずかな時間でも鉛筆を見立てて練習に使ってしまうほど熱中できるものを見つけたようです。

「環世界」という言葉があります。生物学者のユクスキウルが『生物から見た世界』（岩波文庫）のなかで提唱した言葉です。私たち人間は、一つの世界のなかに、人間や動物が存在していると認識しています。同じ時間、同じ空間のなかをすべの生物が生きていると無意識に考えています。しかしそのような客観的な世界は存在せず、すべての生き物はそれぞれ別々の空間と時間を生きていると、ユクスキウルは言います。その個別の世界を「環世界」とユクスキウルは名づけました。



これだけではわかりにくいので、ユクスキウルはダニを例に挙げて説明します。ダニは森や林の茂みのなかで、哺乳類が通るのを待っています。哺乳類が通ると、哺乳類の皮膚の上に飛び降り、皮膚を咬んで血液を吸い産卵に備えます。しかしこの説明は人間の「環世界」に沿った説明になっていきます。実際にダニは「哺乳類」が通ったから飛び降りるのではなく、哺乳類の皮膚から発せられる「酪酸」という物質に反応して飛び降り、摂氏三十七度という「温度」に反応して、哺乳類の皮膚に着地したことを認識し、吸血を始めるのだそうです。つまりダニの「環世界」には

「哺乳類」も「皮膚」も存在せず、ただあるのは「酪酸」と「温度」ということになります。このような「環世界」があらゆる生物に個別に存在していて、ダニと比べるとはるかに複雑に世界を捉えていると思われる人間の生きる世界も、一つの「環世界」に過ぎないことになりました。

哲学者の國分功一郎さんは『暇と退屈の倫理学』（新潮文庫）のなかでこの考えを推し進め、人間はほかの生物と違い複数の「環世界」を自由に行き来できると書いています。子ども

も大人と違う「環世界」を生きています。子ども頃、スーパーマーケットに行くとお菓子コーナーだけが輝いて見えたのですが、いまの私は値引きシールにしか反応しない「環世界」に生きています。

人間がこのように「環世界」を自由に行き来できるのは、学ぶことができる生き物だからでしょう。空に浮かぶ「お月さま」が地球を回る衛星であり、地球の重力と遠心力の均衡のうえに軌道を描き、アポロ11号が着陸し、かくや姫の故郷でもある……。学んだら学んだ分だけ、さまざま「環世界」の月を眺めることができます。

フルートに目覚めた男の子は、フルートを通して世界を見る「環世界」に入り込んだでしょう。彼の目を通して鉛筆さえもフルートに見えてしまうのです。それほどまでに熱中できる世界を手にできたことは、間違いなく彼の人生において幸福なことだと思えます。これから耳にするものすべてが、いままでと違った色彩を持って聞こえてくることでしょう。

大切なことは、運命のめぐり合わせで入り込んだ「環世界」であっても、思う存分その世界を堪能することだと思っています。子どもの時代にしか感じられないことを、しっかりと感じ味わい尽くすこと。どうせいずれやってくるのですから、急いで大人の「環世界」に入る必要はありません。魅力的な人というのは、大人になってもどこか幼い一面を必ず持っているものです。それは本当に幼いのではなく、子ども頃の「環世界」へも自由に行き来できているということなのかもしれません。私には鉛筆をフルートに変身させる瞳が、羨ましくなりません。

花まる学習会 山崎 隆



山崎 隆 Yamazaki Takashi

東京東ブロック教室長。千葉県の内陸部出身。2歳上の姉と3歳下の弟と、ただっぴりい関東平野の片隅で育つ。小さい頃、外遊びはもちろんだが室内で遊ぶのも好きで、図鑑を開いては恐竜の世界を想像していた。高学年の頃より伝記を通して歴史に親しむ。休みの日には、青春18きっぷで目的地もなく出かけることを楽しみにしている。

# とある花まるの先生が、わが子の中学受験に直面した

その5

お隣さんちにあやかりたい！  
(5年生2月)

2月2日の夜、マンションのゴミ置き場から戻ってきた夫がある報告をしてくる。

「あのさ、古紙回収の場所に、中学受験のテキストプリント一式が、紐でしばって山のように出されていてさ。たぶん、お隣のRくんのところだと思っただけど…」

二人でしばし、顔を見合わせる。隣のRくんは小学6年生で、今年、受験生だ。

「…山!? まさかもう受験終了ってこと? きつと2月1日の第一志望校に受かったってことだよな…そして、結果が出てすぐ、テキストプリント類を全部「ミ出し!? ひょえ〜…」

「ってことは、しばらく学校を休むって言うんだけど、Sは明日からまたRくんと登校できるか。2月1日からの一週間は、親も送迎やらなんやらで仕事をやりくりするって職場の先輩が言っていたけどなあ…すげえなあ」

「おはよう! 受験終了了?」

「そう。今日からまた学校に行けるよ」とあっさり答えてくれた。やはり2月1日の第一志望校に受かったという。

「わあ、おめでとう! すごい、さすがだね!」と心から祝いつつ、来年の今頃に思いを馳せる。

はたしてわが家はこんなにも晴れやかに受験終了を迎えられるのか、そうではないのか。

いつもおっとり優雅に話すRくんのママだが、そのあまりの潔さと仕事の速さに脱帽するばかり。さすがでございます、と拝んでいろいろと

あやかりたい気持ちでいっぱい。Rくんのご家庭はお姉さんもいて、4年前に中学受験を経験していることも影響しているだろうが、私だったらきつと、名残を惜しんでそんなにさっぱりすっきり切り替えられないだろうなあ…。

さてさて、受験まで正味一年だが、スクールFCのシグマTECH部門では、「夕ご飯をおうちで食べる中学受験」を掲げている。5年生までは週末はリアル授業でモチベーションを維持しながらも、平日は通塾の必要がなく、オンラインですべて授業を受けることができた。通塾時間の大幅な短縮だ。下の子もまだ手がかかるし、塾弁当を用意できる自信がカケラもなかった私にも非常に優しいスタイルである。

取り組むべき学習範囲も明確で、一週間の課題を、自分でスケジュール表に落とし込むことができるようになるまで、5年生の初期こそフォローが必要だったが、慣れてくれば、一人でできるようになった。集団授業は週2日だし、必要な学習部分を厳選してくれるおかげで、課題の量もそこまで多くはない。本人が続けたがったサッカーやテニス、ピアノなどの習い事も、曜日をやりくりして、続けてくることができた。

そしてわが息子ながら、時間のやりくりがうまくなくなってきたようにも思う。朝に早起したら好きなことをしていいよ、と言っていたら、この一年は、朝6時過ぎには自然に目を覚まし、好きなゲームや動画を見るように。ゲーム、パワーでの早起きはいかかなものかとも思うが、朝の7時に計算・漢字だけはマストでやっているの、まずは早起きの習慣が大事、と黙認中。

## 家族構成



東京都内の私立中高一貫女子高出身。過去にはスクールFCで小~中学生の英語も教えていた、花まるの先生。子どもが生まれてからは事務方まわりの仕事を多くしている。夫と協力体制で、受験も子どもの思春期も乗り切れたなら、子どもが巣立ったあとも、よき関係を築けそうな気がする今日この頃。

地方の公立高校出身。もともとは「なんでそんなところにお金かけるの、東京って変じゃない?」と中受否定派だった。近くの公立中学校に、スポーツ系部活の選択肢がほほえないことがわかり、「中学生男子は身体を動かしたほうがよい」という信念に基づき、俄然、中受に前向きになった。

4歳から生粋の花まるっ子として過ごす。最近では、真冬でも半そで半ズボン押し通すという、よくわからないこだわりを発揮する。大昔の同級生にもこういう子っていたよなあ……昭和か! と母は突っ込みたくなる。

保育園児。外面がよい甘えん坊。なんだかんだ遊んでくれる兄が大好きで、なんでもまねっこする。ちょっかいを出しては、返り討ちにあり、よく泣きわめいている。

花まる学習会 川波朋子

ちなみに模試の偏差値は、乱気流のように安定せず、回によって激しく上下している。昨年の夏に多少テコ入れしたつもりですが、いまだに点数が取れない…。ただし、よいときの偏差値を信じて、Sがここに行きたいな、と言っている第一志望校は、合格圏内ではある。最難関校を目指しているわけではない…と、結局は親も子どもとこかまだのんびりしている、5年生の冬。中学受験での第一志望校合格率は約3割と言われていて、未来はまったく見通せない。だが、できうるならば、来年の今頃、お隣さんちのようになれましようにと切に祈る2月初旬であった。

Q

仕事が大好きなので、いろいろなイメージを膨らませながら楽しかったようです！母としては、花紙での工作と書いていたので、お花等作ってくるのかと想像していたのですが、実際はダンボールのお城の工作をして帰ってきました。思わず「お花紙使わなかったのね？」と言ってしまったのですが……よく考えると、みんなお花紙を使っているなかで、それに流されることなく「自分で作りたいもの」を自由に想像し、形にすることができたのだなぁと思いました。帰ってからは「みんなが同じ材料を使っているなかで、それに流されず自分の好きなものを作れたこと、それが素敵だと思ったよ」と伝えました。よく聞いてみると、お城の前には水があって橋がかかっているようで……話を聞くほど、細かいところまでこだわって作った作品なのだとなり、嬉しい気持ちになりました。

質問です。幼稚園の自由画帳に、ひたすらぐるぐるっと丸を描いて「たくさん迷路ができた！」と持ち帰るのですが……作品をそのまま受け入れ、自分がいいと感じること（たとえば、色づかいなど）を伝えていれればいいでしょうか。「迷路を描きたい！」と言っているの、たまには「迷路ってどんなふうになっているかな？」と線と線で道ができてね」こんな会話もいいのかなぁと迷っています。——5歳男の子のお母さまより

こころと頭を同時に伸ばす幼児期の子育て

Rinコラム

48

### 表現されたものへの声かけ

A

たかさんの「迷路作品」が、ぐるぐるの丸。けれどそんなとき

「迷路とはこういうものだよ」と伝えるべきか、迷いますよね。彼が「迷路だよ」と制作したのは、もしかしたら迷路というものの「イメージ」を、作品に昇華したのもかもしれません。だとすると「スタートとゴールは？」というような、「迷路とはなにか」という大人の価値観・固定概念をおしつけるのではなく、「色をいっぱい使ったんだね」「いきおいがあるねえ」などあなた自身が感じたことを言葉にして「共感」「鑑賞」しあうことをおすすめします。

「どうやったらもっと迷路になる？」という「質問」に答える場合は、まずは「どうしたらいいと思う？」と本人の考えを聞いてみてください。そのうえで、共同制作者としてのスタンスで一緒に考えてあげるといいでしょう。

この日の彼の段ボール作品は、自分と対話し「やりたいこと」を追求したアーティストの作品でした。自信を持って制作したことがわかります。カラフルなお花紙が素材テーマの日に、段ボールを盛大に使って大作を仕上げた彼のことを、お母さまが受けとめ、まわりに左右されることなく自分で軸で選びとった彼の選択に気がつき、「素敵だと思ったよ」と伝えてくれたという事

実。それは彼にとって、「ありのままの自分をまらんと認めてもらえた」という喜びになったはず。作品を鑑賞することは、作者を一人の人間として尊重することと同じなのです。

「じゆうとは自分に聞き自分で決めることだよ」「自分のやりたい気持ちを大切にすることだよ」という授業での哲学対話。たとえば5歳でもその意味を理解し、「自分で決める。やり遂げたい」という強い意志を持って制作します。彼は、作品をきちんと立てるために思考実験を繰り返して、創作していました。そのプロセスは、アートそのもの。

うまくいかないときも、柔軟に発想の転換をすることと思考のしなやかさ、自分で決めて制作したからこそその達成感、そういうものがつまっていました。そう、こころと頭がグルグルと回り、まさに主体的な学びを体現していたのです。

だからこそ、鑑賞会では彼の作品をみんなが興味津々で見えていました。誰かの評価に合わせたものではなく、内なる自分が表現されたものは、光を放ち、人を魅了するものです。人生も同じですよ。

Rin (井岡由美)



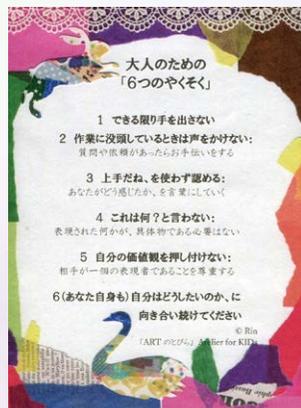
## 親子 Atelier for KIDS

8/6(日) 10:30～12:00 / 14:30～16:00 旅をするペットボトル

会場 Kant. WORK LOUNGE(六本木駅より徒歩1分)  
参加費 子ども1名3,500円/大人1名2,000円(税込)  
対象 年長～中学生の子どもと保護者  
定員 各回8組  
申込期間 7/7(金)～7/26(水) 19:00 <https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>



『こころと頭を同時に伸ばすA1時代の子育て』(実務教育出版)より



## 「川面に映るあのとき」

私は川が好きです。川を見ると彼の名な鴨長明の言葉を思い出します。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。」河が流れて行く様子を見てみると、池や沼とは異なり、とうとうと流れて行き、その水の流れは、河がなくならない限り絶えることはない、という意味です。世のなかに常なるものがないけれども、河の流れ自体は絶えないというある種の「歴史観」を、鴨長明は「無常」という言葉と重ね合わせて表しているのでしょう。激動の時代、たった一年ですら明らかに違う世のなかに変化しています。ただ私は思うのです。川の水はほとんど先に流れて行ってしまいませんが、川面に映るあのときはいつまでも変わらずにそこにあるのではないかと。

先日、地元に戻ったときに中学時代の友達に会いました。天気もよかったです。久しぶりに友達とその子どもと地元を散歩しました。行く当てもなかったのですが、中学校を見に行くことにしました。中学校は川沿いにあるのですが、歩いていると忘れていた思い出がどんどんとあふれ出てくるのです。石を蹴ってどこまでくなくずに帰れるか挑戦したこと、はじめて友達と本気で喧嘩をしたこと、友達が好

きな人に告白するため、みんなで橋の上でその子が通るのを待ち構えたこと(後日譚ですが、遠目に私たちを見て、なにかあると踏んでその子は別の道から帰って告白はかなわず終わりました)。「そんなことあったよね」「よく覚えてるね」という日常の何気ない一コマが、あのときに戻ったかのように次々と鮮明に思い出されました。まわりの景色は違って、更地になって、場所もあり「ここになががあったっけ?」なんて会話をしながら歩いていきましたが、確かにそこには変わらないものがあつたのです。通学のときに毎日通った日差しを映す川は、細かく光の粒を放ち、あちこちにぶつかつた流れは水しぶきを上げ白く激しく泡立っています。その光景のなかにあのときが変わらずありました。まるで川面が私たちの記憶の入り口となっているように。

サマースクールの一幕。子どもたちと川遊び中、私が何の気なしに「きれい」と呟きました。私の目にパツと入った光景はキラキラと輝いた川面の上で太陽のようには眩しい笑顔で遊ぶ子どもたちの姿でした。その姿の美しさに心を奪われて出た言葉です。するとおもしろいことに近

## 花まるコラム

2023年7,8月

くにいた1年生、2年生、3年生の男子たちが「ねえー!きれいだよね!」と共感したのです。その子たちにながきれいか聞きました。すると1年生の男子は「森が緑できれい!」と。青々とした山に囲まれて大自然のなかで遊ぶ経験がなかったその子は自然の雄大さをきれい

解散のときにYくんが「(そのリーダーと)離れたくない!」とおおい泣く姿を見て、人を好きになることを学びサマースクールの度にこの甘酸っぱい気持ちに思い出すのかな、と温かい気持ちになりました(私とは離れてもいいんかい!!)と思つたのは秘密です)。

だと思つたのでしょうか。2年生の子は「川の水に雲が映っていてきれい!」と。なるほど、夏の大きな入道雲を映す川は、川であり空でもあるのだと気づかされました。そして3年生のYくんが一言。「あのリーダー、きれい」視線の先には、ある一人の女性リーダーがいました。Yくんは彼女に恋をしました。どこか移動するとき、ごはんのとき、外で遊んでいるときにいつの間にか彼女のもとに行っているのです。百人鬼ごっこでは「僕の後ろに隠れて!僕が守るから!」と映画から飛び出してきたヒーローのようなカッコいい

人生と呼ばれるものは、川の流れのよう過ぎ去つた時間のなかに潜む無数の欠落のうえに成り立っているものなのかもしれません。しかし川面に映るあのときの情景と人々が私たちの人生を明るく照らしてくれるのだと思います。いつかどこかでそんな川面を見てあのときの自分と出逢えるよう、一度しかないこの夏にたくさんの思い出がきますように。

花まる学習会 柳澤隼人



はな きょうしつちよう しょうかい  
花まるの教室長を紹介します！

# はな 花まるファミリー

オンライン

アルゴ …アルゴクラブ

GONOU …GONOU 囲碁教室

無人島

FC …スクールFC

Flos …フロス

みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに！



**パッション**

あいざわ たつき  
**相澤 樹**

茨城 千葉 千葉県



**ポピー**

あおやま ゆうすけ  
**青山 裕介**

埼玉 新潟県



**サマー**

おか ゆうすけ  
**岡 裕介**

東京南 東京都



**かつしこ**

かしもと えり  
**樫本 衣里**

中京 奈良県



**スティック**

こばやし しゅんぺい  
**小林 駿平**

埼玉 長野県



**たつつき**

さとう たつや  
**佐藤 達也**

神奈川南 東京都



**れいれい**

たかつ なつこ  
**高津 奈都子**

埼玉 埼玉県



**ポテト**

たかはし しゅんすけ  
**高橋 駿輔**

茨城 山形県



**ぱんだリーゴ**

たなべ ひろこ  
**田邊 紘子**

埼玉 新潟県



**ごんべえ**

のざわ なおき  
**野澤 直紀**

埼玉 埼玉県



**ソイソイ**

ひじかた ひやうが  
**土方 日向**

埼玉 東京都



**マラケ**

まじま けんいちろう  
**真島 健一郎**

神奈川北 神奈川県



**123456 ななりーゴ**

まつだ な  
**松田 な奈**

埼玉 埼玉県



**ガッツ**

むらい みづき  
**村井 美月**

東京南 愛知県



**オーガム**

やまさき たかし  
**山崎 隆**

東京東 千葉県



**ゴールデン**

わたなべ えいじ  
**渡辺 栄治**

千葉 熊本県



**まんまん**

たかはま まさのぶ  
**高濱 正伸**

〇〇〇 熊本県

リーダーネーム  
名前  
所属  
出身地

7月の誕生花は **ユリ**

はな きょうしつちよう しょうかい  
花まるの教室長を紹介します！



# はな 花まるファミリー



🌐…オンライン

アルゴ…アルゴクラブ

GONOU…GONOU 囲碁教室

🏝️…無人島

FC…スクールFC

Flos…フロス



いずみ なつほ  
泉 奈津穂

千葉

兵庫県



いのうえ あすみ  
井上 笑里

東京南



埼玉県



おがわりょうた  
小川 凌太

千葉

東京都



かとう ちひろ  
加藤 千尋

東京東

埼玉県



かとう わたる  
加藤 渉

東京西

茨城県



きよおか ゆうが  
清岡 悠河

神奈川南

神奈川県



さかた しょう  
坂田 翔

東京東

山口県



たばた あつこ  
田畑 敦子

東京東

埼玉県



ねもと さおり  
根本 沙織

東京西

千葉県



みずぐち れい  
水口 玲

埼玉

北海道



よしだ ゆうた  
吉田 優太

東京西

大阪府



たかはま まさしのぶ  
高濱 正伸

〇〇〇

熊本県

……リーダーネーム

……名前

……所属

……出身地

サマースクールや雪国スクールで会おうね！

8月の誕生花は ひまわり



高濱が、花まるの仲間をちょっとおちゃめにワイルドに紹介していく「高濱の他己紹介」がバージョンアップ！高濱が、教室長一人ひとりについてじっくり語ります。どうぞお楽しみに！